



金沢大学教職大学院

金沢大学大学院教職実践研究科
教職実践高度化専攻

地域の学校教育のニーズにあわせて
2023年4月、
金沢大学教職大学院が
新しくなりました!



現代の教育が直面している課題に挑戦する 教職実践知の創造

金沢大学教職大学院は2023年4月より、従来の2コース制を発展的に改編し、内容の多様性を総合する「探究教育」と、人の多様性を尊重する「共生教育」の2領域からのアプローチで、現代の教育課題に協働で取り組むことのできる、専門的知識と実践的指導力を有する高度専門職業人の養成を目指しています。

新しい特徴

1 世界を広げる 学び合い

様々な経験をもつ院生と協働で学び合い、ネットワークを広げられます。北欧のウプサラ大学との連携による海外研修等を通して、国際的な視野も育めます。

2 新しい時代に 対応する 2領域

高度化科目として、探究教育領域と共生教育領域を設定。両領域の理論と実践を学んだ上で、いずれかを選んでさらに深めることができます。

3 クォーター制 による 効果的な学習

1年間で4クォーターに分け、ステップアップしながら学びます。学習の流れやまとまりを大切にしつつ、各科目に集中してじっくり取り組むことができます。

探究教育領域

様々な課題に挑む中で広く深い学習を実現し、物事の本質を見極めることを目指します。子どもたちが探究的かつ創造的に学びを深められるように、ICTを活用し、多様な分野の知見を総合させて教育実践力を育てます。

共生教育領域

学校や地域社会で多様な人々が互いに認め合いともに生きていくための教育環境の更新を目指します。子ども、同僚、社会の人々の多様性や協働に目を向け、次世代をつくるより良い教育環境を構築する教育実践力を育てます。

履修モデル

1年目

大学院GS
基盤科目
(1単位)

基盤科目
(20単位)

高度化科目
(8単位)

総合科目 (4単位)

実習科目 (2単位)

2年目

総合科目
(4単位)

実習科目
(8単位)

実践
研究
報告書

※現職教員は、所属先で勤務を行いながら指導を受けます。
学部卒院生(ストレートマスター)は、週2回程度実習校で実習を行います。
いずれも週1回程度大学で総合科目を履修します。

• 実践と理論とを往還し、より良い教育を創造する

• 探究的な学習を支援する

• 共生的な学校・学級づくりに取り組む



カリキュラムについて

教育に関する理論と実践の往還を実現する教育課程として、「基盤科目」「高度化科目」「実習科目」「総合科目」の4種類の科目群を設けています。また、国際社会で活躍するリーダー育成という金沢大学の教育方針を示す「金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)」を基に開発した「大学院GS基盤科目」も履修します。

| | | 必修科目 | 選択必修・選択科目 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 大学院GS (グローバル・スタンダード) 基盤科目 | | 研究者倫理 | |
| 基盤科目 教育の本質的な理論と最新の実践を学ぶ5領域を設けます。各領域の必修科目に加えて、キャリアや関心に応じて選択できる選択科目を置きます。また、総合大学としての研究成果を活かし、実践的な学校課題に対応する専門的な科目を置きます。 | (1) 教育課程の編成・実施 | カリキュラムの理論と実践 地域教育実践 | 地域教育支援プロジェクト |
| | (2) 教科等の実践的指導法 | 授業研究とICT活用 発達障害の理解と対応 | 教育評価研究 |
| | (3) 生徒指導、教育相談 | スクールソーシャルワーク論と実践 | スクールソーシャルワーク研究 |
| | (4) 学級経営、学校経営 | 学校マネジメントの理論と実践 | 学校組織研究 学校危機管理論 |
| | (5) 学校教育と教員の在り方 | 現代教育課題研究 | |
| 高度化科目 両領域の理論と実践を学んだ上で、いずれかの領域についてフィールドワークやプロジェクトを通してさらに深く学びます。 | 探究教育領域 | 探究教育の理論と実践 | 地域社会と探究フィールドワーク 学校組織と探究教育のデザイン 探究教育プロジェクト |
| | 共生教育領域 | 共生教育の理論と実践 | 子ども社会と共生フィールドワーク 学校組織と共生教育のデザイン 共生教育プロジェクト |
| 実習科目 学校における実務経験を通して教職への理解を深め、実際に実践と省察を行うために実習を行います。1年次は、全学校種の教育課程を有する本学附属学校園で実施し、2年次には、県下の連携協力校で実施します。 | | 学校実習Ⅰ | 学校実習ⅡA 学校実習ⅡB |
| 総合科目 多様な科目での学習内容を発展的に統合するために、長期にわたって多様な視点から理論と実践を往還します。 | | 実践カンファレンスⅠ 実践カンファレンスⅡ 実践研究Ⅰ 実践研究Ⅱ | |



院生の声



現職院生

金沢市立野田中学校
岡元 恵里樹さん

2023年度
入学

今までは自分の経験に頼りがちでしたが、学校や教育を客観的に捉えたいと思い、教職大学院で学んでいます。理論と実践例を学び視野が広がったのは、校種や経験値が異なる現職・学卒院生仲間たちとの議論のおかげです。さらに、教職大学院の先生方のアドバイスにより、子どもをとりまく環境や発達について捉え方が変化し、自分の教育観を再構築していると日々実感しています。学校現場では目の前の生徒のことで一生懸命になり、教育観を振り返る余裕はなかったため、教職大学院での学びが貴重な経験になると確信しています。

私は、探究的に粘り強く学ぶ生徒を育むため、教科としてできることに興味があります。今後も理論と実践を往還しながら研究を進め、学んだことを生徒や学校現場に還元したいです。



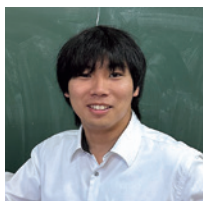
学部卒院生

川上 未有希さん

2022年度
入学

大学の4年間で学習した知識をさらに深められるだけでなく、様々な校種、年代の現職の先生方と共に議論させて頂くことで、知見を広げられていると実感しています。現場に出た経験がないため分からないことも多くありますが、現職の先生方が優しく教えてくださるので積極的に授業に参加することができています。現場に出た際に積極的に授業を工夫し、生徒にとってよりよい授業をできるよう、講義や議論を通して学びを深めていきたいです。特に、理科の日常生活と関連付けた授業のデザイン方法に興味・関心があるので、視野を広くもち、理論と実践の往還をしながら研究に取り組んでいきたいと考えています。

修了生の声



学部卒修了生

珠洲市立緑丘中学校
高橋 大祐さん

2022年度
修了

私は2年間金沢大学教職大学院で学んだ中で、学校実習が印象的です。金沢大学は附属幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校があるため、1年次から自分が興味のある校種で、授業実践を行うことができます。2年次ではこれまでの自分の経験や附属学校での実習の成果、大学院での日々の授業を通して、自分の授業に対する課題を見だし、それらを解決するために、理論や仮説を立てながら実践研究を行うことができます。研究を通して、自分の授業課題を改善できたり、自分の授業スタイルを築いたり、専門教科の深い理解ができたりなど、学校の実態をより詳しく知ることや授業のイメージを持つことができ、着任後すぐ学校に適應できたことも大きいと実感しています。



現職修了生

石川県立
いしかわ特別支援学校
吉川 尚吾さん

2021年度
修了

私は、修了研究において自閉症児とのコミュニケーションを主題としました。研究を通して、「自閉症児と教師」ではなく、「人と人」が関わることの普遍的なあり方で思索を深めることができ、私の「特別支援教育」の枠組みは大きく広がりました。私を導いてくれたのは、大学院の先生方や院生仲間との、共感的で、時に批判的な対話であったと思います。

私たち現職教員は、日々の実践で疑問を感じることもあっても、立ち止まって考える余裕をもてないことも多いのではないのでしょうか。大学院は、自らのこれまでの実践や教育観を省み、追究したい問いと時間をかけて向き合える、現職教員にとって価値ある学びの場です。

概要

金沢大学大学院 教職実践研究科 教職実践高度化専攻

■ 入学定員 15名 (内訳 現職教員10名/学部卒5名)

■ 学費(予定額) 入学科: 282,000円
授業料: 535,800円(年間)

■ 奨学金制度 (学外) 日本学生支援機構
(学内) 入学科・授業料免除制度

■ 所在地 石川県金沢市角間町

■ 取得できる学位 ・教職修士(専門職)

■ 取得できる
教員免許状

- ・高等学校教諭専修免許状
- ・中学校教諭専修免許状
- ・小学校教諭専修免許状
- ・幼稚園教諭専修免許状
- ・特別支援学校教諭専修免許状(申請中)

お問い合わせ

金沢大学人間社会系事務部学生課

[入試関係] 入試・学生募集係 Tel: 076-264-5600~5602 E-mail: n-nyusi@adm.kanazawa-u.ac.jp

[教務関係] 大学院・留学支援係 Tel: 076-264-5455 E-mail: n-daigakuin@adm.kanazawa-u.ac.jp

<https://pdte.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

